

2015年7月23日

中富良野 三好一浩様 訪問レポート

本年 LEMKEN コンビドリル(サファイア 7/300+ジルコン 8/300)を使用して乾田直播のデモを実施した中富良野の三好様を訪問し作業体系についてのお話を伺いました。

三好様は昨年からの乾田直播に取り組んでおり、多岐にわたる作付体系がある中で最終的な体系を確立しつつあります。

中富良野地区では、現在乾田直播に取り組んでいる農家は4軒程度ですが、今後間違いなく増えていく見込みであるとの事でした。

総作付面積は20haで、内訳は慣行水田15ha、湛水直播2.5ha、乾田直播2.5haとなっています。

※湛水直播とは、入水代掻き後に播種する方法でヤンマー取扱いの播種機を使っています。

湛水直播については生育ムラが目立ち、今後は乾田直播を増やしていく予定であるとの事。(下記写真参照)



乾田直播
(LEMKENドリル使用条間125mm)



湛水直播
(ヤンマー播種機使用)

一連の作業体系として、畑から水田に転作する場合はプラウ耕が必須であり、その後レーザーレベラーで均平する事が必要となりますが、水田から乾田直播に移行する場合は、稲刈り後ディスクハロー(ヘリオドール)で混和し、春に再度ヘリオドールをかけ、パワーハローで播種床を形成する体系がベストと考えています。(プラウは不要)

但し、基盤整備が出来ていない圃場ではレーザーレベラーによる均平化が必要不可欠となります。これは、低地に水溜りができると稲の生育が著しく悪くなり均平化は非常に重要な要素となります。(特に圃場の四隅)

従来はディスクハローではなくロータリーを使っていましたが、現在ロータリーは一切使っておらず、ディスクハローで十分な砕土混和が出来ています。この事によりトラクターのPTO動力が不要な為、大幅な燃料節約と高速作業を実現しています。

三好様が考える最終的な作付体系は以下のとおりです。

- 4月下旬 肥料散布(直播専用の長期持続肥料を9~10kg散布)
ヘリオドールにて表層混和作業 将来的には除草剤散布も検討中
- 5月上旬 コンビドリルにて播種作業(側条同時施肥は不要)

ケンブリッジローラーを使うか思案中(現時点では不要と思われる)

6 月以降

除草剤散布は出穂前に 1 回、その後は虫の状態を見て 3 回の合計 4 回程度実施
(いもち病が一番の大敵)

岩見沢地区では播種前にラウンドアップを散布しているようだが、三好様は播種前に
播種同時用粒剤を散布する事を考えている。

10 月以降

収穫後ヘリオドールをかけてそのまま越冬する。

収量について:

- 昨年実績で、慣行水田では 9 俵~10 俵に対して、乾田直播では 7 俵~8 俵(最大 10 俵)です。

その他の情報:

- LEMKEN のドリルの良いところは、①浅播きが可能で出芽が早い。②サイドタイヤが無いので掛け合わせがきれいに出芽が均等になる。③トラピーズパッカーローラーの溝に播種していくため安定した播種が可能。
- 昨年は M 社のドリルや N 社のドリルのシュータイプを使用したが、種の着床が不安定で、サイドタイヤ跡のくぼみ部分の生育が遅くなる症状が出た。
- ケンブリッジローラーでの鎮圧を検討しているが、LEMKEN ドリルのプレスホイールの接地圧を強く設定する事により現時点では不要と考えている。(下記写真の通り差はほとんど確認できない)



ケンブリッジローラー使用



ケンブリッジローラー不使用

- 今回のデモでは条間 125mm 仕様で播種しましたが、購入検討モデルは 150mm 仕様です。
- 現在 LEMKEN コンビドリル 150mm 仕様を事業申請しており、9 月に結果が出ます。



三好 一浩 様
ご協力ありがとうございました。

以上